大学教育学会ニュースレター

No.99　　2015. 4. 15

一般社団法人大学教育学会（*Japan Association for College and University Education*）
事務局　：桜美林大学淵野辺キャンパス内
〒252-0206　神奈川県相模原市中央区淵野辺　4-16-1
TEL/ FAX：(042)704-7014
郵便振替口座：00120-4-178891　大学教育学会
e-mail：**ungakkai@gmail.com**　　URL：　http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/

大学教育学会第37回大会を開催するにあたって

大学教育学会第 37 回（2015 年）大会
大会実行委員長　　松坂　誠應（長崎大学理事（教学担当））

本年の 6 月 6 日（土）と 7 日（日）の両日、大学教育学会第 37 回大会を、長崎大学文教キャンパスで開催させて頂くことになりました。会員の皆様が充実した時間を過ごせるよう、学会事務局の全面的な支援を頂きながら、心を込めて準備を進めています。

ご存知のように、学問の深化を図るための大学が我が国に設置されてから、1 世紀半が経とうとしています。この間、大学は研究推進を最優先に発展してきました。戦後の教育改革にあっても大学の方針が大きく変化することはなく、その精神は大学教職員の常識として定着してきました。しかし、社会が豊かになるにつれて大学は市民に身近なものとなり、大学数が増えるとともに大学進学率の向上が顕著になってきました。特に、社会の少子化が急速に進んだ現在、18 歳の半数以上が大学の門をくぐるようになりました。彼らは、自己の変革や成長の場など、様々な機会の提供を大学に求めています。このような多様な学生たちを受け入れ、彼らの欲求を充たし、社会が求める人材に育成して送り出すことが、大学の大きな使命になっています。つまり、大学は、研究力だけでなく教育力も求められるようになってきました。

振り返れば、教育を変えなければという動きが本学で生まれ、それが全学的な輪になり始めたのは、20 年ほど前のことです。当時としては珍しく、それが学長裁量経費を獲得し、米国の大学等の調査も行ってその成果として FD や学生による授業評価の提案を行いました。その後、学長の同意も得て、それらが実行に移されました。この動きが徐々に全学教職員の理解を得、大学教育機能開発センターの開設、そして、大学教育イノベーションセンターへの改組転換という道を開くことになりました。現在、本学は授業評価や FD はもちろんのこと、アクティブラーニングやポートフォリオ等のシステムを整えるとともにアウトカムの「見える化」に向けた努力を続けています。この状況は各大学に共通することと思います。中教審の指導もあって、大学教育のイノベーションは、確実に進んでいます。その意味で、大学は大きく変化しつつあります。

一方で、「学生たちは育っているか」という素朴な疑問があります。専門家は、懸命になればなるほど、本来の目的を忘れてしまう「習癖」を持っていると言われています。最も重要なステークホルダーである学生を中心に置いて、これまでの取組みを振り返ることも必要かもしれません。この大会がその端緒になればと願っています。

会場は、基調講演等では中部（なかべ）講堂を使用しますが、教養教育棟がメイン会場となっています。雨の時期でもあり、会場から会場への移動は短い距離ですむようにと心掛けています。さらに、蒸し暑さを乗り切る工夫もしたいと考えています。ただ、大学の緊縮財政の中、快適さに欠ける箇所が生じる可能性もあります。本大会の成功に向けて企画委員会と実行委員会は、できる限りの努力をする所存です。皆様方のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

大学教育学会第 37 回（2015 年）大会

統一テーマ

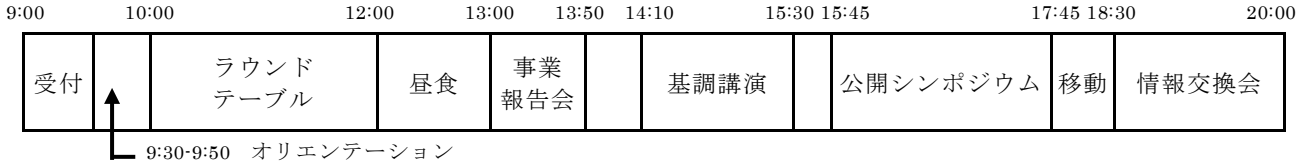
「ところで学生は本当に育っているだろうか？」

1. 開催期日および会場

期　日　2015年6月6日（土）、6月7日（日）
会　場　長崎大学文教キャンパス（長崎市文教町1-14）
　　教養教育棟　　：オリエンテーション、ラウンドテーブル、自由研究発表
　　中部講堂　　：受付、事業報告会、基調講演、公開シンポジウム
　　稲佐山観光ホテル：情報交換会

2. 大会日程

第１日：６月６日（土）



第２日：６月７日（日）

第１日：６月６日（土）

9:00 -	受付
9:30 - 9:50	初めて参加する人のためのオリエンテーション
10:00 - 12:00	ラウンドテーブル 1～18
12:00 - 13:00	昼食
13:00 - 13:50	事業報告会
13:50 - 14:10	休憩
14:10 - 15:30	基調講演　立花隆氏（評論家・ジャーナリスト） 講演題目「考えるとはどういうことか」
15:30 - 15:45	休憩
15:45 - 17:45	公開シンポジウム テーマ「学生の育ちをみる」
17:45 - 18:30	移動（バス）
18:30 - 20:00	情報交換会

第２日：６月７日（日）

9:00 -　　受付
9:30 - 12:00　自由研究発表Ⅰ
12:00 - 13:00　昼食
13:00 - 15:00　自由研究発表Ⅱ
※日曜日の昼食に関しては、事前にお弁当の申込みを受け付けます。

関連行事：６月５日（金）
14:00 - 18:00　第１回理事会（教育学部棟　SCS 教室）
６月７日（日）
12:00 - 13:00　第２回理事会（教養教育棟　A31 番教室）

進行の詳細

6月6日（土）

9：00～　　受付

9：30～9：50　初めて参加する人のためのオリエンテーション

会 場：Ａ２１　　**担当**：大学教育学会事務局長　石渡　尊子（桜美林大学）

10：00～12：00　ラウンドテーブル

テーブル１　大学の教育改善のための学生参加の現状・課題と今後の方向性
会　場：Ａ１２
企画者：川上　忠重（法政大学）、上野　誠也（横浜国立大学）、橋本　勝（富山大学）、林　透（山口大学）、廣内　大輔（岐阜大学）、曽根　健吾（東洋大学大学院）
趣　旨：教育のパラダイムシフトは、組織的取り組みの中で認識されつつあり、FD 活動への学生参画、ピア・サポートの活動も学生・職員・教員の協働運営として、一定の成果も一部報告されている。一方で、大学の教育改善における学生参加は、本来、不要であり、改善の成果の不透明さ、参加学生のモチベーション維持、大学運営組織との関係及びサポート教員・職員の負担等の多くの課題があることも事実である。本ラウンドテーブルでは、学生参加型 FD や学生の主体的な学びのための経験豊富な実践報告をもとに、学生の視点、力を活かした教育の質向上に向けた取り組みの現状と課題を明確化することにより、今後の方向性について参加者とともに考える場としたい。

テーブル２　チームで進める教育のススメ－学生の育ち、教職員の育ち－
会　場：Ａ１３
企画者：高村　麻実（大手前大学）、本田　直也（大手前大学）、近藤　伸彦（大手前大学）、川崎　弘也（株式会社ラーニングバリュー）
趣　旨：ユニバーサルアクセス時代。多様な学生に対応する実効的な教育に未だ解はない。報告者らはチームの力に着目し、教員・職員がチームとなって、学生もチームとなって、組織的に進める導入教育やキャリア教育を実施してきた。全てが計画通りに進んだわけではないが、試行錯誤の中からまるで“瓢箪から駒”のように生まれたものもある。そんな数年間の取り組みを経て、「学生の育ち」に実効的と思われるひとつのスタイルが生まれてきた。本ラウンドテーブルでは、こうした取り組みを中心に、大学・企業それぞれの観点から、知見やノウハウの共有を行うとともに、ラウンドテーブル参加者の事例や実情、成果や悩みなどを共有し、議論を深めたい。

テーブル３　学生の目を輝かせる大学教育の可能性Ⅶ－学生の未来を創る大学のミッション－

会　場：Ａ１４

企画者：米田　敬子（文教大学）、高橋　真義（桜美林大学大学院）、杉森　公一（金沢大学）、中村　拓昭（九州産業大学）、菊地　勇次（文部科学省）、十河　功一（九州女子大学）

趣　旨：グローバル化、2018 年問題、大学入学者選抜の改善、大学教育の質的転換、加えて、少子高齢化による限界集落問題など、高等教育を取り巻く環境は厳しく、深い霧に覆われている。大学の使命の一つに、大学の資産であり主役である学生のモチベーションを高め、多様な能力を発揮させることがある。闇の中であろうと、未来に生きる学生の足元を照らす明かりを掲げなければならない。本ラウンドテーブルでは、大学の教職員からの問題提起をうけて、将来を見据え、学生の輝く未来を創るための大学のミッションを語り合う。参加者とのグループワークにより、学生が目を輝かせる大学教育の新たな可能性を探ることとする。

テーブル４　アクティブラーニング授業の構成　－学生の学び合いをどう活かすか－

会　場：Ａ２２

企画者：山田　邦雅（北海道大学）、土岐　智賀子（立命館大学）、長谷川　詩織（宇都宮大学）、安田　淳一郎（山形大学）、長澤　多代（三重大学）、徳井　美智代（北海道大学）

趣　旨：アクティブラーニングの導入を検討してゆくと、組織レベル、カリキュラムレベル、授業レベルで問題が出てくることがわかる。その中で、今、我々教員個人がすぐにとりかかることができるのは自分の授業の改革である。授業構成における重要なテーマの一つは、どのような方法で“学生の学び合い”を導入するかという問題ではないだろうか。学び合いの導入は、教授効率の向上、教える側に立つことによる学生の成長、学生主体型授業への転換、学生の個性の引き出しなどの効果が期待でき、さらにその効果は様々なレベルに波及しうる。本ラウンドテーブルでは、学び合いを取り入れた実践事例を共有し、汎用的に活用できそうなモデルを抽出してゆきたい。

テーブル５　アクティブラーニングとしての反転学習１　研究編

会　場：Ａ２３

企画者：森　朋子（関西大学）、三保　紀裕（京都学園大学）、岩崎　千晶（関西大学）

趣　旨：20 世紀後半にアメリカで生まれた反転学習は、学習者の理解が格段と高まった事例がいくつか報告されたことで教育改革の新たな目玉となっている。多くブレンディッドラーニングの一形態として位置づけられる反転学習だが、対面授業における学習活動はまさにアクティブラーニングそのものであり、高い効果の一端は、アクティブラーニングが支えているとも言えるのではないか。本ラウンドテーブルでは、2013 年度より、その学びのプロセスや構造を明らかにするために集まった研究者が「実践編」と「研究編」の２つのセッションに分かれてその研究成果を報告するものである。１の「研究編」では、学びのプロセスや学習観の変化、教員の意識などに注目する。

テーブル６　アクティブラーニングとしての反転学習２　実践編

会　場：Ａ２４

企画者：本田　周二（島根大学）、小貫　有紀子（大阪大学）、七田　麻美子（総合研究大学院大学）、竹中　喜一（関西大学）

趣　旨：20 世紀後半にアメリカで生まれた反転学習は、学習者の理解が格段と高まった事例がいくつか報告されたことで教育改革の新たな目玉となっている。多くブレンディッドラーニングの一形態として位置づけられる反転学習だが、対面授業における学習活動はまさにアクティブラーニングそのものであり、高い効果の一端は、アクティブラーニングが支えているとも言えるのではないか。本ラウンドテーブルでは、2013 年度より、その学びのプロセスや構造を明らかにするために集まった研究者が「実践編」と「研究編」の２つのセッションに分かれてその研究成果を報告するものである。２の「実践編」では、具体的な実践例をもとに反転学習の効果について考えていく。

テーブル７　保健医療福祉系大学における教養教育の問題（６）－専門教育の危機と教養教育の意義－

会　場：Ａ３１

企画者：小野　滋男（北海道医療大学）、志水　幸（北海道医療大学）、町田　修三（高崎健康福祉大学）、遠藤　良仁（岩手県立大学）、小関　久恵（東北公益文科大学）、森元　拓（山梨大学）、宮本　雅央（群馬医療福祉大学）、山下　匡将（名古屋学院大学）

趣　旨：これまで、われわれは当該課題について、「専門教育と教養教育とのつながり」、「人文社会系教養の意義」、「コア・カリキュラムにおける人文社会系教養の意義」、「多ルート問題と大学の独立性」、「教養教育の専門性」の視点から検討してきた。その結果、教養教育と専門教育とを統合した教

育体制の整備、当該専門教育の成果に対する人文社会系教養の知見からの再審問の必要性、教養教育を科目に還元せずに検討することの意義、大学における専門職養成の意義として教養教育の復権、外生的課題に応えうる専門職養成と教養教育の意義について議論を深めてきた。そこで、今回は、専門教育の危機の時代における教養教育の意義について考えてみたい。

テーブル８　学生が考えるための主体的学びの２ｎｄステージ

会　場：Ａ３２

企画者：小山　義徳（千葉大学）、馬場　眞知子（東京農工大学）、河住　有希子（日本工業大学）、野崎　浩成（愛知教育大学）、たなか　よしこ（日本工業大学）

趣　旨：社会の急激な変化に伴い、教育も大きな転換期を迎えている。高等教育においては、教育の質保証が求められ、一握りのエリートを育成する教養教育システムを改め、リベラルアーツを基礎とした社会人基礎力が必要であるとされている。本ラウンドテーブルではこれまで、狭義の学力をもとに、広義の学力と社会人基礎力を見据えた生涯学び続ける人材を育成するための、様々な教育方法を提案してきた。その一つとしてフシンセツな授業、親身な授業、学生による学ぶ主体としての学習活動などを取り上げてきた。そこで、本当に育った学生というのは、４年後にどうなっているかを、教員の見取りを含めて、皆で話し合い、検討したい。

テーブル９　対話する学びのコミュニティを大学人はどのようにつくりだすのか

会　場：Ａ３３

企画者：池田　輝政（名城大学）、青山　佳代（愛知江南短期大学）、黒田　光太郎（九州産業大学）、秋山　優（九州産業大学）

趣　旨：大学から幼・小・中・高までの教育と学びの質的転換を加速させる動きが国の質保証施策として目立ってきている。標準化と外形性を重視する外発的な質保証施策を踏まえて、私たちは 2013 年と 2014 年のラウンドテーブルで、教育機関の独自性と個性を醸成する内発的な質文化形成の重要性とそれを創る方法論の必要性を事例報告の形で発信してきた。本年度はこのアプローチを実践に役立つものにする上で不可欠である一つの問いに焦点を定めてみる。それは「対話する学びのコミュニティを大学人はどのようにつくりだすのか」という問いである。当日の報告者には、この課題に対する回答を事例として提出してもらい、質文化形成アプローチの実践的基盤の可視化を試みる。

テーブル10　ＦＤを本当に進めるために何が今、求められているのか：ＦＤ義務化から８年、私とＦＤの昨日・今日・明日

会　場：Ａ４１

企画者：清水　亮（神戸学院大学）、小田　隆治（山形大学）、圓月　勝博（同志社大学）、倉茂　好匡（滋賀県立大学）、三浦　真琴（関西大学）、上野　寛子（明治学院大学）

趣　旨：FD が義務化されてから８年、大学により温度差があることはいうまでもないが、大学教育の現場が目の前の現実に対応できず、大学の改革が追いついていない状況がある。本当に FD が進んでいるという実感をもっている大学はあるのだろうか。かつては「象牙の塔」と呼ばれた大学教授も、自分自身の大学で生存していくために、アイデンティティを確立することが求められる時代となっている。どうしたら大学教育のパラダイムシフトに対応できる FD を進めることができるのか。現場を見据え FD の最前線で活躍されている話題提供者の先生方と、どうしたら変えられるのか、指針、方策についてフロアとともに考えたい。

テーブル11　大学教師の専門性およびその開発プログラム認証のための基準

会　場：Ａ４２

企画者：加藤　かおり（新潟大学）、杉原　真晃（聖心女子大学）、川島　啓二（国立教育政策研究所）、沖　裕貴（立命館大学）

趣　旨：大学教員の教師として求められる「専門性」や「FD で開発されるべき教育力の枠組の必要性（中教審答申 2008）」が謳われながら、実質的な議論が進んでいるとは言い難い。そこで、本ラウンドテーブルでは、教師としての専門性に関わる先行研究の「新任教員研修の基準枠組」、大学教師のプロフェッショナル化推進の先行事例としてのイギリスにおける「教育および学習支援職能の基準枠組（UKPSF2011 改訂）」を基盤とした高等教育アカデミーのプログラム認証の取り組みを参照しつつ、日本における新任教員研修をはじめとした教育力研鑽の機会を、継続的な専門職能開発プログラムとして成熟させていくための参照基準について検討する。

テーブル12　プレＦＤの現状からみえる課題と目指すべき方向性

会　場：Ａ４３

企画者：栗田　佳代子（東京大学）、佐藤　浩章（大阪大学）、夏目　達也（名古屋大学）、羽田　貴史（東北大学）、小笠原　正明（北海道大学）、吉良　直（日本教育大学院大学）

趣　旨：大学院生を対象にした大学教員の準備を促すプログラムはプレ FD として位置づけられ、研究を重視し大学教員を多く輩出する大学において独自の取り組みとして普及しつつある。実施に至る背景に関わらず本プログラムは大学教員の資質の向上に寄与する側面が期待されている。本ラウンドテーブルは、１）各大学において展開されているプログラムの目的、内容と独自性および現状の問題意識や課題について共有する、２）その上で、この種のプログラムが高等教育の未来に対して、どのような責任があり、どういった貢献が可能なのかについて考え、今後、実質的な一歩を踏み出すべき方向について議論を行う、の２点を目的とする。

テーブル13　一般教育の知的遺産を活かす（その７）

会　場：Ｂ１５

企画者：志津木　敬（広島大学）、竹下　賢（関西大学）、山本　伸也（関西学院大学）、杉本　孝作（四国学院大学）、近藤　久雄（龍谷大学）、深野　政之（大阪府立大学）

趣　旨：本ラウンドテーブルでは、（その４）から（その６）にかけて一般教育学会を中心に一般教育の知的遺産を取り上げて参りました。「自己のもうひとつの専攻領域」「専門教育の一般教育化」「フィードバック評価」はいずれも、一般教育の最大の特徴ともいえる知識の一般化にかかわる知的遺産でした。

（その７）では、一般教育導入時期、盛んに唱導され、一般教育の原点ともいえる「良き市民（good citizen）」を取り上げることに致しました。一般教育の展開を考える際には避けても通れない知的遺産でもあります。多くの先生方のご参加をお待ちしております。

テーブル14　教養教育の本流Ⅱ

会　場：Ｂ３４

企画者：児玉　英明（京都三大学教養教育研究・推進機構）、阿部　勘一（成城大学）、東谷　護（成城大学）、長尾　佳代子（大阪体育大学）、橋爪　孝夫（山形大学）、林　哲介（京都大学）、渡辺　かよ子（愛知淑徳大学）

趣　旨：本ラウンドテーブルの問題意識は、近年の教養教育をめぐる議論がジェネリックスキルの養成という側面を過度に重視しそれを測定しようとするがあまり、戦後間もなくのころ議論された教養教育の源流にあたる諸研究の蓄積が抜け落ちているのではないかというものである。日本学術会議『21 世紀の教養と教養教育』に示されているように、教養教育の究極の目標は民主的社会とその豊かな展開を担う民主的市民の形成であった。しかし、いつのまにかその目標は後景に退き、より実践的・実用的な観点が重視されるという様相を示している。本ラウンドテーブルでは教養教育の本流を踏まえながら、時代が求める新たな教養教育を本音で語り合う場としたい。

テーブル15　発達障害学生への学生支援・大学教育の役割

会　場：Ｃ１６

企画者：青野　透（徳島文理大学）、望月　由起（昭和女子大学）、片岡　美華（鹿児島大学）、小川　勤（山口大学）、橋場　論（福岡大学）、山中　淑江（立教大学）、大島　啓利（広島修道大学）、吉武　清實（東北大学）、岩田　淳子（成蹊大学）、村松　健司（首都大学東京）

趣　旨：２年目に入った課題研究である。昨年 12 月の中教審答申は、「障害の有無・・・にかかわらず、多様な背景を持った学生を受け入れ」「主体性を持って多様な人々と協働するとともに創造性を磨くことのできる学習環境の実現」「多様な学生に対応できる教育カリキュラムの用意」を謳った。政府は２月に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する基本方針」を公表し、各大学は障害者差別解消法来年４月施行に向けた整備を急いでいる。RT では、学生相談担当者から「発達障害学生をどのように支援し、必要な学内連携により教育的配慮の実現にどう努めているか」の事例を交えてご報告いただき、障害学生がいることを前提とした大学教育への転換をどう図るべきか議論する。

テーブル16　学士課程教育における共通教育の質保証：評価データの併用と質保証のマネジメント

会　場：Ｇ３８

企画者：山田　礼子（同志社大学）、松下　佳代（京都大学）、鳥居　朋子（立命館大学）、高橋　哲也（大阪府立大学）、亀倉　正彦（名古屋商科大学）、森　利枝（大学評価・学位授与機構）、高野　篤子（大正大学）、斉藤　有吾（京都大学大学院）

趣　旨：課題研究「学士課程教育における共通教育の質保証」は、「１．共通教育における学習成果の直接評価」「２．数理科学分野における共通教育の質保証」「３．共通教育における学習成果の間接評価」「４．共通教育における質保証のためのマネジメント」の４つのサブテーマからなる。今回は、サブテーマ１と３、４の進捗状況について報告する。サブテーマ１からは名古屋商科大学のデータを用い、直接評価と間接評価の併合について、サブテーマ３は大学生学習調査（間接評価）に組み入れたクイズ（直接評価）の開発について、サブテーマ４はサブテーマ１でも取り上げている名古屋商科大学と大正大学を事例に、質保証のマネジメントについて発表する。

テーブル17　ルーブリックの組織的導入と活用

会　場：Ｇ３Ａ

企画者：藤木　清（関西国際大学）、川嶋　太津夫（大阪大学）、関田　一彦（創価大学）、芹澤　高斉（淑徳大学）小林　至道（関西大学）

趣　旨：平成 20 年の学士力答申において各授業科目の到達目標や成績評価基準の明確化が要請され、平成 23 年の大学設置基準の改正、平成 24 年の学教法施行規則の改正で、学修成果に係る評価基準の明示と公表が明言された。この要請に応える評価ツールの一つとしてルーブリックが注目されている。しかし、大学対象の調査によれば、全学で活用できる汎用的ルーブリックの活用は一割に満たない。本ラウンドテーブルでは、ルーブリックの導入に取り組んでいる大学の実例を示し、組織的な導入や活用での課題を共有する。また、機関評価へ可能性について探る。※大学間連携共同教育推進事業「主体的な学びのための教学マネジメントシステムの構築」取組関連

テーブル18　体験工房：ミュージッキング＆ライティングによる新たなコミュニケーション教育の可能性

会　場：学生プラザ１階

企画者：山地　弘起（長崎大学）、西田　治（長崎大学）、谷　美奈（帝塚山大学）

趣　旨：学生のコミュニケーション力向上は、今日の大学教育の大きな使命となっている。この課題に対して、多くの大学で対人関係や言語表現、情報活用などでの基本技能育成が積極的に図られているが、教養教育が単に社会人として必要な基本技能の訓練に終わることなく、我々の棲みこんでいる世界を自覚化し、共生を志向していくための基盤づくりに資するためには、より原初的かつ自己省察的な関係吟味の機会が必要ではないだろうか。そこで本企画では、音･音楽を介した即興表現（ミュージッキング）と主体形成を促す言語化（パーソナル・ライティング）の体験型ワークショップを行い、参加者同士で新たなコミュニケーション教育の方向を探る契機とする。

12：00～13：00　昼食

13：00～13：50　事業報告会

会　場：中部講堂

13：50～14：10　休憩

14：10～15：30　基調講演

会　場：中部講堂

演　題：考えるとはどういうことか

講　師：立花　隆 氏（評論家・ジャーナリスト）

司　会：小笠原　正明氏（学会長）

15：30～15：45　休憩

15：45〜17：45　公開シンポジウム「学生の育ちをみる」
会　場：中部講堂
シンポジスト：
　企業側からみた学生の変化　　：深澤　晶久氏（前 株式会社 資生堂／実践女子大学）
　学修成果の可視化からみえる学生像　　：溝上　慎一氏（京都大学）
　先行的実践の取組からみえる学生の育ち：丸野　俊一氏（九州大学）
　大学での育ちをみることの意味　　：早川　信夫氏（NHK 解説委員）
指定討論者：深堀　聰子氏（国立教育政策研究所）
司　会：山地　弘起氏（長崎大学）

17：50〜18：20　移動

18：30〜20：00　情報交換会

会　場：稲佐山観光ホテル

6月7日（日）

9：00〜　　受付

9：30〜12：00　自由研究発表Ⅰ　　（○は登壇者）

部会１　アクティブラーニング（１）
会　場：Ａ１２
司　会：堀井　祐介（金沢大学）、三浦　真琴（関西大学）
9:30〜9:50　グループワークを効果的に展開するために
　　○三浦　真琴（関西大学）
9:50〜10:10　アクティブラーニングを通した研究倫理教育の実践
　　○山邉　昭則（東京大学）
10:10〜10:30　教員の協働による高次アクティブラーニングを導入している大学はどこか？（事例調査報告）
　　○谷口　哲也（河合塾教育研究部）
10:30〜10:40　休憩
10:40〜11:00　学生主体の＜グループ学習(プレゼン発表・授業司会運営含)＞における学生の成長と課題－3・11 東日本大震災・福島原発問題後の＜福島の学校と教師が直面する課題から学ぶ＞教職科目「課程論」4 年間の実践研究から－
　　○小島　勇（東京電機大学）、○立川　琢也（東京電機大学）
11:00〜11:20　アクティブラーニング型授業における学生の学習過程に関する検討
　　○森　裕生（早稲田大学大学院）、網岡　敬之（早稲田大学、非会員）、
　　江木　啓訓（神戸大学、非会員）、尾澤　重知（早稲田大学）
11:20〜11:40　アクティブ・ラーニング導入によるカリキュラム・教育方法・学修支援環境の統合的な改革
　　○杉森　公一（金沢大学）、堀井　祐介（金沢大学）、古畑　徹（金沢大学）、
　　中島　健二（金沢大学）
11:40〜12:00　総合討論

部会２　キャリア教育
会　場：Ａ１３
司　会：望月　由起（昭和女子大学）、山本　啓一（九州国際大学）

9:30～9:50　多様な評価の組み合わせによるジェネリックスキルの評価と学生の成長の可視化
○吉村　充功（日本文理大学）、山本　啓一（九州国際大学）、石川　勝彦（熊本県立大学、非会員）、成瀬　尚志（京都光華女子大学短期大学部）、藤野　博行（九州国際大学、非会員）、梶原　健二（福岡女子短期大学、非会員）

9:50～10:10　大学間連携・学生連携によるジェネリックスキル育成と課題解決型インターンシップの連続的教育プログラム開発
○山本　啓一（九州国際大学）、吉村　充功（日本文理大学）、石川　勝彦（熊本県立大学、非会員）、成瀬　尚志（京都光華女子大学短期大学部）、藤野　博行（九州国際大学、非会員）、梶原　健二（福岡女子短期大学、非会員）

10:10～10:30　体験からの学びと学生の成長を評価する仕組みづくり
○崎山　直樹（千葉大学）、○佐々木　綾子（千葉大学）

10:30～10:40　休憩

10:40～11:00　看護系大学に関するキャリア教育実施状況調査について
○池田　一郎（筑波大学）

11:00～11:20　産学連携活動を通した社会人基礎力の育成
○福重　八重（阪南大学）、前田　利之（阪南大学、非会員）

11:20～11:40　「コンピテンシー評価プログラム」を用いた定性的な自己分析の試行
○霜鳥　美和（お茶の水女子大学）、○望月　由起（昭和女子大学）

11:40～12:00　総合討論

部会３　学生 FD・ピアサポート
会　場：Ａ１４
司　会：向後　千春（早稲田大学）、木野　茂（立命館大学）

9:30～9:50　多様化する学生 FD に関する－考察－学生 FD サミット参加大学の学生団体(学生 FD)を中心に－
○河島　広幸（山口大学）、林　透（山口大学）

9:50～10:10　ピア・サポートの現状と課題－全国の四年制大学に対する調査結果をもとに－
○橋場　論（福岡大学）、小貫　有紀子（大阪大学）

10:10～10:30　学習支援に従事する学生スタッフのインセンティブに関する考察－東北大学学習支援センター（SLA サポート）の事例に基づいて－
○鈴木　学（東北大学）、○足立　佳菜（東北大学）

10:30～10:40　休憩

10:40～11:00　説明力向上を目指したメンタ研修の実施
○冨永　敦子（公立はこだて未来大学）、渡邉　文枝（早稲田大学）、杉浦　真由美（早稲田大学大学院、非会員）、向後　千春（早稲田大学）

11:00～11:20　e ラーニングを用いたブレンド型授業における TA・SA の活用と成果
○秋山　英治（愛媛大学）、仲道　雅輝（愛媛大学）

11:20～11:40　学生 FD の過去・現在・未来－学生 FD か、学生参画か－
○木野　茂（立命館大学）

11:40～12:00　総合討論

部会４　教育方法・授業改善（１）授業・カリキュラム改善
会　場：Ａ２２
司　会：鳥居　聖（桜美林大学）、佐藤　浩章（大阪大学）

9:30～9:50　カリキュラムの可視化による教育の質改善－カリキュラム・マップ・デザイナーズエディションの開発－
○佐藤　浩章（大阪大学）、志水　良（Ryo Shimizu design office、非会員）、中村　昌平（大阪大学、非会員）

9:50～10:10　学生アンケートから明らかになった共通教育カリキュラム改革の結果と今後の方向性
○小川　勤（山口大学）

10:10～10:30　環境フィールドワーク報告書における校閲時エラー数と指導方法の関係
○倉茂　好匡（滋賀県立大学）

10:30～10:40　休憩

10:40～11:00　教育改善における失敗学手法の可能性－アプリシエーティブ・インクワイアリーを活用した統合的発展－
○中川　正（三重大学）、亀倉正彦（名古屋商科大学）

11:00～11:20　学生による授業評価について（全国調査結果の概要）
○鳥居　聖（桜美林大学）

11:20～11:40　共通教育マネジメントに関わる組織文化を規定する要因
○岡田　有司（高千穂大学）、鳥居　朋子（立命館大学）

11:40～12:00　総合討論

部会５　学士課程教育（１）
会　場：Ａ２３
司　会：塚原　修一（関西国際大学）、杉本　和弘（東北大学）

9:30～9:50　アメリカの大学における教養教育カリキュラムと実施体制：カリフォルニア大学バークレー校・サンフランシスコ州立大学の事例
○吉田　香奈（広島大学）、○杉本　和弘（東北大学）、中島　夏子（東北工業大学）

9:50～10:10　アメリカの大学における教養教育カリキュラムと実施体制：スタンフォード大学の事例
○中島　夏子（東北工業大学）、吉田　香奈（広島大学）、杉本　和弘（東北大学）

10:10～10:30　General education 理念の形成と展開－18、19 世紀の哲学者たちの用例に即して－
○渡邉　浩一（京都女子大学）

10:30～10:40　休憩

10:40～11:00　オランダにおける高等教育の質保証の動向－大学教員の教授能力開発－
○井上　史子（帝京大学）、バーツ(岡本)　早苗（マーストリヒト大学、非会員）

11:00～11:20　ブラジルの高等教育における評価と質保証－国立高等教育評価システム SINAES に着目して－
○山口　アンナ真美（北海道教育大学）、塚原　修一（関西国際大学）

11:20～11:40　総合討論

部会６　情報系・ICT
会　場：Ａ２４
司　会：中田　美喜子（広島女学院大学）、金西　計英（徳島大学）

9:30～9:50　「文章作成力演習」におけるクラウドを活用した協働学習の試み
○倉掛　崇（日本福祉大学）

9:50～10:10　反転授業の実践の効果と課題について
○金西　計英（徳島大学）、高橋　暁子（徳島大学、非会員）

10:10～10:30　全学的な e ラーニング普及推進の方策と成果
○仲道　雅輝（愛媛大学）、根本　淳子（愛媛大学、非会員）、鈴木　克明（熊本大学大学院、非会員）

10:30～10:40　休憩
10:40～11:00　主体的学習能力の育成を目指した情報リテラシー教育の成果
○佐藤　尊範（東海学院大学）
11:00～11:20　有意味受容学習とグループワークを組み合わせたシステム活用者教育
○廣渡　栄寿（北九州市立大学）、浅羽　修丈（北九州市立大学）
11:20～11:40　「博物館情報メディア論」における SNS を利用した講義について
○中田　美喜子（広島女学院大学）
11:40～12:00　総合討論

部会７　教育方法・授業改善（２）PBL
会　場：Ａ３３
司　会：杉原　真晃（聖心女子大学）、成瀬　尚志（京都光華女子大学短期大学部）
9:30～9:50　正課学習と正課外活動を組み合わせた PBL の成果と課題の検証
○櫻井　典子（新潟大学）、松井　克浩（新潟大学）、松井　賢二（新潟大学）、高橋　秀樹（新潟大学）
9:50～10:10　学生の主体的な活動を促すプロジェクト型授業の授業デザインシートの開発 –ソーシャルアクションアプローチに着目して–
○小山　理子（京都光華女子大学短期大学部）、成瀬　尚志（京都光華女子大学短期大学部）、橋本　智也（京都光華女子大学、非会員）
10:10～10:30　学生プロジェクトチームによる PBL スタイルの正課外活動を通した学生教育効果
○長谷川　誠（千歳科学技術大学）
10:30～10:40　休憩
10:40～11:00　深いアプローチによる学習とそれを促す教員の特性
○藤井　玲子（愛知東邦大学）
11:00～11:20　フィールドワークにおける地域住民とのルーブリック開発
○杉原　真晃（聖心女子大学）
11:20～11:40　総合討論

部会８　大学運営・IR（１）
会　場：Ｇ３８
司　会：橋本　健夫（関西国際大学）、高橋　哲也（大阪府立大学）
9:30～9:50　大学生の学びと成長に影響を及ぼすキャリア意識
○田中　正之（京都大学大学院）
9:50～10:10　大学生の学修成果を規定する要因についての縦断的検討－大阪府立大学における学生調査の結果から－
○畑野　快（大阪府立大学）、上垣　友香理（大阪府立大学、非会員）、高橋　哲也（大阪府立大学）
10:10～10:30　よく遊びよく学ぶ学生はなぜ高い成長を示すのか？－京都産業大学における定性調査と定量調査の統合に基づいて－
京都産業大学 教育支援開発推進センター（○久保　秀雄、後藤　文彦、中沢　正江、橋本　武久、森　洋、山内　尚子）
10:30～10:40　休憩
10:40～11:00　短期大学における内部質保証システムの構築を支援する学生調査の開発
○山崎　慎一（桜美林大学）、堺　完（日本私立学校振興・共済事業団）
11:00～11:20　地方短期大学生のコミュニティ意識について－卒業生調査からの分析より－
○杉原　亨（関東学院大学）
11:20～11:40　授業に生かす IR
○川越　明日香（長崎大学）、橋本　健夫（関西国際大学）

11:40～12:00　　総合討論

部会９　大学運営・IR（２）
会　場：Ｇ３Ａ
司　会：　川嶋　太津夫（大阪大学）、山田　礼子（同志社大学）
9:30～9:50　　学生意識調査のフィードバック－大学連携による教学 IR－
○田中　洋一（仁愛女子短期大学）、徳野　淳子（福井県立大学、非会員）、山川　修（福井県立大学、非会員）、平塚　紘一郎（仁愛女子短期大学、非会員）
9:50～10:10　　調査結果をどのように見せるか：現場での活用を意識した学生調査 DB 開発－JSAAP データベースを事例に－
○西郡　大（佐賀大学）、井ノ上　憲司（長崎県立大学）、堺　完（日本私立学校振興・共済事業団）、木村　拓也（九州大学）、森　利枝（大学評価・学位授与機構）、杉谷　祐美子（青山学院大学）、沖　清豪（早稲田大学）、山田　礼子（同志社大学）
10:10～10:30　　自己点検・評価における効果的なデータの見せ方について
○安岡　高志（立命館大学）
10:30～10:40　　休憩
10:40～11:00　　大学初年次における意識・意欲と GPA
○清水　強志（創価大学）
11:00～11:20　　学内構成員への学生の学びの実態に関する広報発信の試み－IR プロジェクトの実践を通じた課題の発見－
○小貫　有紀子（大阪大学）、和嶋　雄一郎（大阪大学、非会員）、齊藤　貴治（大阪大学、非会員）、川嶋　太津夫（大阪大学）
11:20～11:40　　総合討論

12：00～13：00　昼食

13：00～15：00　自由研究発表Ⅱ　　（○は登壇者）

部会１０　アクティブラーニング（２）
会　場：Ａ１２
司　会：橋本　勝（富山大学）、清水　亮（神戸学院大学）
13:00～13:20　　ワークシート、シャトルカード、プレゼンテーションを活用による主体的な学びの推進：英語、社会科学分野、人文社会分野における試み
○清水　亮（神戸学院大学）
13:20～13:40　　教育改善における失敗学手法の可能性－『アクティブラーニング失敗事例ハンドブック』の成果と課題－
○亀倉　正彦（名古屋商科大学）、中川　正（三重大学）
13:40～14:00　　転移の可能を高めるアクティブラーニングの授業モデル－2014 年授業結果を元にして－
○筒井　洋一（京都精華大学）、大木　誠一
14:00～14:20　　転移の可能を高めるアクティブラーニングの授業モデル－2015 年授業モデルの提案－
○大木　誠一、筒井　洋一（京都精華大学）
14:20～14:40　　ライト・アクティブラーニングのススメ
○橋本　勝（富山大学）
14:40～15:00　　総合討論

部会１１　学生支援
会　場：Ａ１３
司　会：浜島　幸司（同志社大学）、田実　潔（北星学園大学）
13:00～13:20　発達障害のある学生への授業支援のあり方とその妥当性
○田実　潔（北星学園大学）
13:20～13:40　大学・短大における課外スポーツ活動支援に関する課題の抽出
○西垣　景太（中部大学）、北　徹朗（武蔵野美術大学）、小林　勝法（文教大学）
13:40～14:00　佐賀大学におけるラーニング・ポートフォリオの活用とその効果
○山内　一祥（佐賀大学）、皆本　晃弥（佐賀大学）、滝澤　登（佐賀大学、非会員）
14:00～14:20　大学図書館における学習支援－歴史的文脈と展望－
○村上　孝弘（龍谷大学図書館）
14:20～14:40　ラーニング・コモンズが学生にもたらす学習成果－同志社大学良心館 LC 利用アンケート調査から－
○浜島　幸司（同志社大学）、井上　真琴（同志社大学）、岡部　晋典（同志社大学、非会員）、鈴木　夕佳（同志社大学、非会員）、野田　宣彦（同志社大学、非会員）、松本　仁美（同志社大学、非会員）、三宅　重彰（同志社大学、非会員）、山田　礼子（同志社大学）
14:40～15:00　総合討論

部会１２　プレ FD
会　場：Ａ１４
司　会：北野　秋男（日本大学）、西村　秀雄（金沢工業大学）
13:00～13:20　金沢工業大学大学院における研究倫理教育の取り組みについて
○西村　秀雄（金沢工業大学）
13:20～13:40　大学院生向け Transferable Skills Workshop の可能性：大阪大学の挑戦
○堀　一成（大阪大学）、山内　保典（大阪大学、非会員）、家島　明彦（大阪大学）、浦田　悠（大阪大学、非会員）
13:40～14:00　大阪大学におけるリーダーシップ養成プログラムの現状と課題
○家島　明彦（大阪大学）
14:00～14:20　FD およびプレ FD としてのミニレクチャプログラムの開発と評価
○吉田　塁（東京大学）、栗田　佳代子（東京大学）、井上　俊哉（東京家政大学、非会員）
14:20～14:40　ポストドクターに教授経験を－未来の若手教員養成（PFF）の視点から－
○北野　秋男（日本大学）
14:40～15:00　総合討論

部会１３　教職協働・教職員能力開発
会　場：Ａ２２
司　会：栗田　佳代子（東京大学）、林　透（山口大学）
13:00～13:20　大学間連携を通した教職学協働に関する実践的研究－大学共創プロジェクトの軌跡（キセキ）－
○林　透（山口大学）、河島　広幸（山口大学）
13:20～13:40　コースデザインワークショップの経験を通した大学教員の授業観－大阪大学英語版コースデザインワークショップを事例に－
○大山　牧子（大阪大学）、有川　友子（大阪大学、非会員）

13:40～14:00　大学教員の研究意欲に影響を及ぼす要因（Ⅰ）－地方私立大学を対象として－
○川端　壮康（尚絅学院大学）、○小泉　嘉子（尚絅学院大学）、桂　重樹（尚絅学院大学）、田村　嘉勝（尚絅学院大学）、李　篠平（大連理工大学、非会員）、王　沖（大連理工大学、非会員）

14:00～14:20　米国大学院協議会による最新の大学教員準備（PFF）プログラムの考察
○吉良　直（日本教育大学院大学）

14:20～14:40　オンライン FD プログラム「インタラクティブ・ティーチング」の開発と評価
○栗田　佳代子（東京大学）、小原　優貴（東京大学、非会員）、山辺　恵理子（東京大学、非会員）、中原　淳（東京大学）

14:40～15:00　総合討論

部会１４　学士課程教育（２）
会　場：Ａ２３
司　会：江原　昭博（関西学院大学）、渡辺　かよ子（愛知淑徳大学）

13:00～13:20　高等教育の大衆化に対応する Tertiary Education の検討：G.D.ストッダードの構想を中心に
○渡辺　かよ子（愛知淑徳大学）

13:20～13:40　教養教育の原理像と学習成果の把握－吉野源三郎・丸山眞男の教養教育論の検討を中心にして－
○児玉　英明（京都三大学教養教育研究・推進機構）

13:40～14:00　近代的修養概念の成立について
○加藤　恒男

14:00～14:20　準正課教育と正課外活動に関する一考察－正課外活動における正課外教育に着目して－
○黒田　友貴（愛媛大学大学院）

14:20～14:40　効果的な内部質保証システムの構築
○江原　昭博（関西学院大学）

14:40～15:00　総合討論

部会１５　ライティング
会　場：Ａ２４
司　会：山地　弘起（長崎大学）、杉谷　祐美子（青山学院大学）

13:00～13:20　主体的に考える構えを培う工夫としての“自問自答的”仕方
○飯野　幹夫（国立音楽大学）

13:20～13:40　剽窃が困難となるレポート論題の類型化－レポート課題における到達目標の多様性とオリジナリティとの関連について－
○成瀬　尚志（京都光華女子大学短期大学部）

13:40～14:00　ライティングセンターによる初年次生に対するレポート指導状況の分析
○岩崎　千晶（関西大学）、吉田　由似（関西大学、非会員）、髙橋　沙希（関西大学、非会員）、福永　健一（関西大学大学院、非会員）、吉﨑　雅基（関西大学大学院、非会員）

14:00～14:20　アウトカム評価としての履歴書・自己紹介書－採点コメントシートからルーブリックへの改善－
○古賀　暁彦（産業能率大学）

14:20～14:40　総合討論

部会１６　初年次教育
会　場：Ａ３２
司　会：松尾　智晶（京都産業大学）、後藤　康志（新潟大学）
13:00～13:20　階層分析法によるキャリア意識の可視化を組み入れた初年次教育の開発
○後藤　康志（新潟大学）
13:20～13:40　学生の主体性に着目した分析結果が示す「初年次キャリア教育の役割」－「大学生のキャリア意識調査」の二次分析から－
○金森　史枝（名古屋大学大学院）
13:40～14:00　クラウドサービスを利用したグループ協働学習の実態調査と分析
○仙石　昌也（愛知医科大学）、宮本　淳（愛知医科大学、非会員）、山森　孝彦（愛知医科大学、非会員）、久留　友紀子（愛知医科大学、非会員）、橋本　貴宏（愛知医科大学、非会員）
14:00～14:20　初年次におけるコミュニケーション教育
○佐藤　広子（目白大学）
14:20～14:40　初年次教育授業における運営支援学生の教育的効果に関する研究
○松尾　智晶（京都産業大学）
14:40～15:00　総合討論

部会１７　教育方法・授業改善（３）
会　場：Ａ３３
司　会：牧野　由香里（関西大学）、小貫　有紀子（大阪大学）
13:00～13:20　リーダーシップ・アイデンティティの発達プロセスとリーダーシップ養成への示唆
○泉谷　道子（松山大学）、○安野　舞子（横浜国立大学）
13:20～13:40　基盤教育における学生の主体性を喚起する歴史授業の試み
○橋爪　孝夫（山形大学）
13:40～14:00　内容理解を重視する日本語コミュニケーション能力の養成－中国の大学の「精読」科目で実施したジグソー法による検討－
○周　静（京都大学大学院）
14:00～14:20　知識構築の十字モデルに基づく評価指標の精緻化－思考力・判断力・表現力と知識・文脈理解の関係－
○牧野　由香里（関西大学）
14:20～14:40　総合討論

部会１８　大学運営・IR（３）
会　場：Ｇ３８
司　会：森　朋子（関西大学）、鳥居　朋子（立命館大学）
13:00～13:20　教学 IR における学内他部署との連携の取り組み－キャリア・オフィスとの連携事例－
○河井　亨（立命館大学）、篠原　裕（立命館大学、非会員）、立岩　健一（立命館大学、非会員）、馬渡　明（立命館大学、非会員）、川那部　隆司（立命館大学）、鳥居　朋子（立命館大学）
13:20～13:40　学部の教育改善に教学 IR はどのように貢献できるか？－立命館大学における IR プロジェクトと薬学部との協働による科目開発の事例から－
○川那部　隆司（立命館大学）、鳥居　朋子（立命館大学）
13:40～14:00　大阪府立大学における教学 IR の実践と展開－学生調査の結果から－
大阪府立大学 高等教育推進機構（○西田　悠輔、上垣　友加里、畑野　快、大久保　正明、高橋　哲也）

14:00～14:20　関西大学における教学 IR の推進に向けた取り組み

○原田　健太郎（関西大学）、森　朋子（関西大学）、岩崎　千晶（関西大学）、○竹中　喜一（関西大学）、脇田　貴文（関西大学、非会員）、田中　俊也（関西大学）、川﨑　友嗣（関西大学、非会員）

14:20～14:40　「教える」と「学ぶ」を支援する能動的な教学 IR のあり方に関する一考察

○森　朋子（関西大学）、原田　健太郎（関西大学）、岩崎　千晶（関西大学）、土井　健嗣（関西大学、非会員）、竹中　喜一（関西大学）

14:40～15:00　総合討論

部会１９　学習成果の測定と活用

会　場：Ｇ３Ａ

司　会：木村　拓也（九州大学）、串本　剛（東北大学）

13:00～13:20　形成的評価と学習成果

○串本　剛（東北大学）

13:20～13:40　Total/Partial Immersion と母国語による教育における言語と認知の関連性について

○浅野　幸子（大阪体育大学）

13:40～14:00　大学生の自己表現トレーニングにおけるスピーチの評価とその変化

○渡邉　文枝（早稲田大学）、堂坂　更夜香（早稲田大学大学院、非会員）、冨永　敦子（公立はこだて未来大学）、向後　千春（早稲田大学）

14:00～14:20　留学生との共修授業での対話から大学生は何を学んでいるか

○大島　弥生（東京海洋大学）

14:20～14:40　テキストマイニングによる学生の成長の可視化－九州大学 21 世紀プログラムにおけるラーニングポートフォリオの分析事例

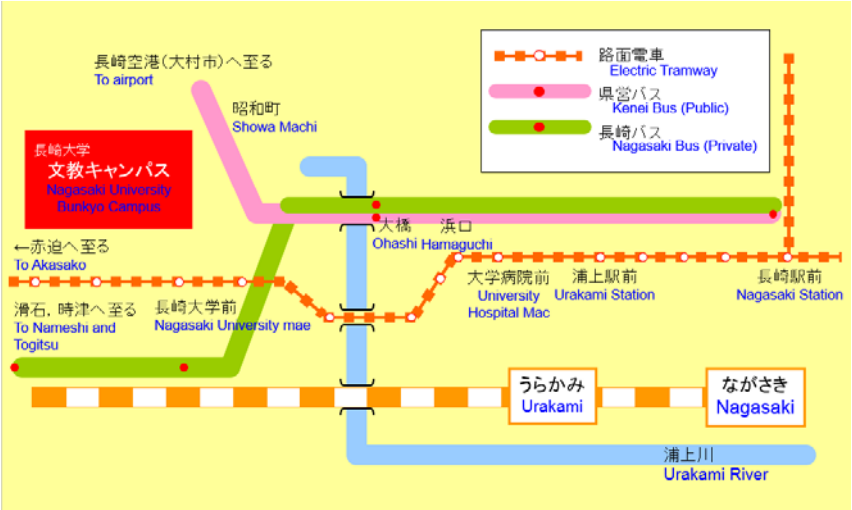
○木村　拓也（九州大学）、九州大学 基幹教育院（田尾　周一郎、林　篤裕、副島　雄児）

14:40～15:00　総合討論

大会参加要領

１．大会会場へのアクセス

＜長崎大学文教キャンパスへのアクセス＞



※所要時間は交通状況により異なります。

・ＪＲ長崎駅から（約 20 分）

路面電車　「長崎駅前」→（赤迫行き）→「長崎大学前」下車

長崎バス　「長崎駅前」→（１番系統「溝川」、「上床」、「上横尾」行き）→「長崎大学前」下車

・ＪＲ浦上駅から（約 15 分）

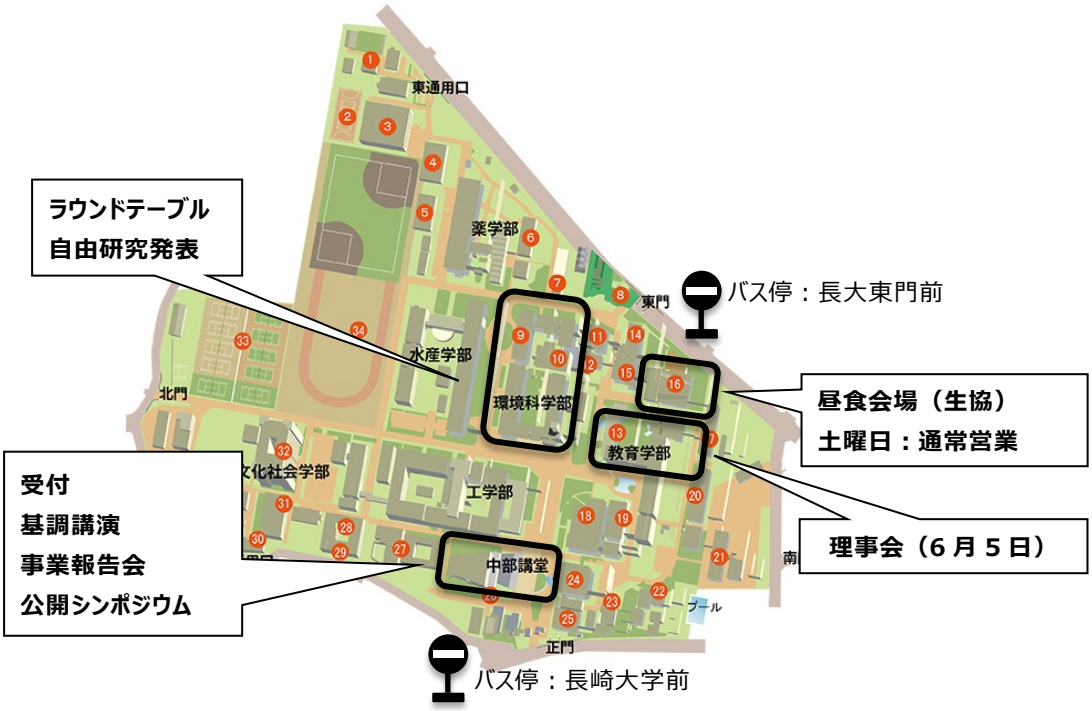
路面電車　「浦上駅前」→（赤迫行き）→「長崎大学前」下車

長崎バス　「浦上駅前」→（１番系統「溝川」、「上床」、「上横尾」行き）→「長崎大学前」下車

・長崎空港から（約 40 分）

県営バス「長崎空港４番のりば」→（昭和町・浦上経由長崎方面行き）→「長大東門前」下車

＜教養教育棟・中部講堂へのアクセス＞



２．参加申し込みについて

学会ホームページ＞「大会・集会」ページ＞左メニューにある「大会参加申し込み」よりお申し込みください。

【参加費用一覧】

費用項目		申込日	
		５月８日(金)までの事前支払	**大会当日**
参加費	**会員・一般**	5,000 円	6,000 円
	学生	2,000 円	3,000 円
情報交換会費	**会員・一般**	5,000 円	6,000 円
	学生	3,000 円	4,000 円
『要旨集』のみ希望		2,000 円（送料込）	
６月７日（日）のお弁当代		1,080 円（税込）	

●参加にかかる合計金額（情報交換会参加・お弁当申込の場合は、情報交換会費・お弁当代を含む）を 5 月 8 日（金）までに郵便局等からお振り込み下さい（振込手数料はご負担下さい）。ご送金人氏名と参加申込人氏名は同一でお願いします。複数名で申し込みをする場合は、次の点を必ず振込み用紙に記載してください。【大学名及び参加者氏名（全員分）、申込内容（参加費、情報交換会費等）、問い合わせ時の連絡先の電話番号】なお、要旨集費（2,000 円）は、大会に参加されず『要旨集』のみご希望の方が対象です。

●振替口座は 5 月 8 日（金）の入金を待って閉鎖します。5 月 9 日（土）以降に申し込みをされる方は、大会当日（6 月 6 日（土）～7 日（日））に受付にてお支払いください。

●支払方法は次の通りです（振替口座は 5 月 8 日（金）の入金を待って閉鎖します）。

１．ゆうちょ銀行から

ニュースレターに同封または郵便局に備え付けの払込取扱票、ATM により以下へお振込下さい。

口座記号番号：01730-7-165648

加 入 者 名 ：大学教育学会 2015 年度大会実行委員会

（ダイガクキョウイクガッカイニセンジュウゴネンドタイカイジッコウイインカイ）

２．郵便局以外の金融機関から

銀行名（金融機関コード）：ゆうちょ銀行（9900）

店名（店番）：一七九（イチナナキュウ）店（179）

預金種目　　：当座

口座番号　　：0165648

加入者名　　：大学教育学会 2015 年度大会実行委員会

（ダイガクキョウイクガッカイニセンジュウゴネンドタイカイジッコウイインカイ）

●2015年度大学教育学会課題研究集会について

2015年度課題研究集会（開催校：岩手大学＆岩手医科大学）は、11月28日（土）～29日（日）に、岩手医科大学矢巾キャンパス（28日）及び岩手大学（29日）で開催予定です。

今回は、新企画として、28日に「ポスター・セッション」を実施いたします。この「ポスター・セッション」の発表資格や内容等は大会の「自由研究」と同等とし、1発表につき、高さ180cm×幅90cmのパネルを用意する予定です（テーブルや電源、インターネット等はありません）。また、予稿集に掲載する原稿を提出していただくことになります。「ポスター・セッション」の申し込み方法等の詳細については、第37回大会後、6月下旬に学会ウェブサイト及びメールマガジンにてご案内いたしますので、ご確認ください。

申し込み〆切は7月中旬、原稿〆切は8月下旬を予定しています。

また、プログラム内容の詳細、参加申し込み方法等については、次回のニュースレター100号にてお知らせいたします。みなさまのご参加をお待ちしております。

2015年度大学教育学会課題研究集会プログラム（案）

【統一テーマ】「連携」から広がる新たな時代の大学教育（仮）

【プログラム案】

11月28日（会場・岩手医科大学矢巾キャンパス）

11:00～	受付開始・ポスター準備
11:30～12:30	ポスターセッション・コアタイムⅠ
13:00～	挨拶等
13:40～14:40	基調講演 岩手医科大学理事長・学長　小川彰先生（予定）
14:50～15:20	ポスターセッション・コアタイムⅡ
15:30～18:10	開催校企画シンポジウム 「多様な連携による大学教育の質向上の可能性（仮）」
18:30～	情報交換会

11月29日（会場・岩手大学）

9:00～	受付開始
9:30～12:00	課題研究シンポジウム
12:00～13:20	昼食
13:20～15:50	課題研究シンポジウム
15:50～16:20	閉会の挨拶等

※プログラム等については、変更される場合があります。

＝事務局から＝

● 【重要】一般社団法人大学教育学会への移行

本会は2015年4月1日づけで一般社団法人大学教育学会に移行しました。新しい組織ではこれまでの理事は代議員（社員）、常任理事会は理事会となり、最高議決機関は総会から代議員総会へと変わります。

● 2015年度からの年会費の変更について

１）個人会員　（会誌1部、年2冊+ニュースレター年3回）正会員　10,000円、学生会員　4,500円
２）団体会員　（会誌2部、年4冊+ニュースレター年3回）20,000円
※大会における研究発表（任意の個人1名のみ）、学会誌投稿、ウェブサイト内へのバナー掲載が可能です。
３）会誌会員（会誌1部、年2冊+ニュースレター年3回）8,000円
※個人、団体共に入会できます。

今年度（2015年度）の会費請求書、郵便払込取扱票送付については、6月頃を予定しております。
会費納入は、大会時の発表申し込みの前提条件となっております（詳細は、ウェブサイト「大会実施要綱」をご確認ください）。また過年度会費の滞納がある場合は、学会誌の発送を見送るなどの措置をとらせていただいております。皆様には速やかな納入をお願いしております。

なお、入金状況については、学会ウェブサイトの会員ページにあります「会員情報の照会・更新」からご自身で確認可能です。

＜「入退会・会員登録情報変更・会費納入状況」の問い合わせ先＞

大学教育学会　学会業務取扱センター
〒170－0002　東京都豊島区巣鴨1丁目24-1　第2ユニオンビル4階
TEL:03－5981－9824　　FAX:03－5981－9852
E-mail:g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp

● 団体会員名の公開とバナーについて

本年5月頃より、学会ウェブサイト内にて、登録団体名を公開させていただきます。また、ご希望の会員についてはバナーを掲載させていただきます。

● 大学教育学会第37回（2015年度）大会参加費・情報交換会費等の払込について

本ニュースレター（NL99号）に参加費・情報交換会費等の払込について詳細をご案内しております。また、払込取扱票についても同封しております。

●【アーカイブズ委員会】の学会関連資料のご寄贈のお願い

特に探究している資料は、以下の通りです。学会事務局まで「着払い」でお送りください。
大会発表要旨集録等
（1979,1981,1989,1990、1993,1998,2000,2001,2002,2003,2004,2010 年）
課題研究集会要旨集
（1981,1982,1985,1986,1987,1988,1989,1992,1993,1998,2001,2003,2004,2005,2008 年）
その他、一般教育学会時代の資料もご寄贈をお待ちしています。

● メールマガジンの受信設定のお願い

現在、会員の皆様に年2～3回、大学教育学会メール通信（メールマガジン）を配信しています。
ご登録のアドレスにおいて学会アドレスungakkai@gmail.comより送信されましたメールを受信できるよう設定をお願いします。

● 住所変更の届出についてのお願い

定期刊行物は、宅配業者メール便を利用しているため、転居にともなう転送はされず数週間後、事務局へ返送されてまいります。そのような場合、会員の方のお手元へのお届けが非常に遅くなりますので、送付先の変更が生じた場合、速やかに会員登録情報の変更申請をウェブサイト上の会員ページよりお願い申し上げます。

【入退会・会員登録情報変更・会費納入状況についてのお問い合わせ先】

大学教育学会　学会業務取扱センター
〒170－0002　東京都豊島区巣鴨1丁目24-1　第2ユニオンビル4階
TEL：03－5981－9824　　FAX：03－5981－9852
E-mail：g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp

【学会事務局】

〒252-0206 神奈川県相模原市中央区淵野辺 4-16-1
桜美林大学 淵野辺キャンパス 3階
Tel/ Fax: 042-704-7014
E-mail：ungakkai@gmail.com
URL：http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/